



ベトナムでの事業集大成のファイナル・ワーク・ショップ

At the Final Workshop as Project Compilation in Vietnam

## Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

### Table of Contents Vol.49 (Nov, Dec 2015)

- ・ インド：参加型コミュニティ防災推進事業
- ・ ネパール：地震緊急支援
- ・ 日本：東日本大震災被災者支援事業
- ・ ベトナム：学校と地域での防災推進事業
- ・ ミャンマー：災害危険地域における防災能力向上支援  
USAID の能力強化支援プロジェクト
- ・ フィリピン：セブ州における防災教育の技術移転事業  
マカティ市における移動式防災教室による防災知識の普及啓発事業
- ・ 国内：防災の主流化研修
- ・ India: Project on Participatory CBDRM
- ・ Nepal: Project on Support for people affected by Nepal earthquake
- ・ Japan: Project on Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
- ・ Vietnam: Project on Capacity Building for DRR at schools and communities
- ・ Myanmar: Project on Capacity Building for DRR  
Project on Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
- ・ Philippines: Project on DRR Education with school- community linkage in Cebu  
Project on Raising Awareness for Disaster Risk Reduction by MKRC
- ・ Japan: Training in Promotion of Mainstreaming DRR



(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

〒658-0072

2-1-21-401 Okamoto,  
Higashi Nada ku, Kobe, Japan  
神戸市東灘区岡本2-11-21-401

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>



## インド

## 【日本 NGO 連携無償資金協力事業・バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

## 事業開始・キックオフワークショップ開催

11月16日、現地での事業開始に際し、事業連携者であるバナラス・ヒンドゥー大学で、キックオフワークショップを開催しました。ワークショップには在インド日本国大使館一等書記官やバラナシ市長をはじめ、コミュニティの方や学校関係者など、約30名の方にお越しいただきました。ワークショップではSEEDS Asiaの紹介をするとともに、バラナシ事業の概要と展望などを参加者と共有しました。さらに、ワークショップ後半には、これから防災・気候変動教育を実施する予定校の校長たちや教員たち、そして、コミュニティの社会福祉士たちと、防災環境教育についての話し合いの時間を設け、現在学校や地域で取り組んでいる活動などを発表していただきました。参加者たちに事業に興味を持っていただくことができ、これから活動を始めるにあたり、良いスタートを切ることができました。



キックオフワークショップの様子

## クライメートスクールへの機材設置

12月10日、防災・気候変動教育を実施するクライメートスクールの1つであるアリヤン・インターナショナル・スクールに自動気象観測装置と大気汚染観測装置を設置しました。

自動気象観測装置は、自動で気温・風向・風速・降雨量などを測る装置です。また、大気汚染観測装置は、二酸化炭素・窒素酸化物・硫黄酸化物、粒子状物質などの大気汚染物質を測る装置です。

バラナシ市内の他4地域の学校をクライメートスクールとして選定しており、これら4校にも装置を設置し、それぞれの地域のデータを観測します。そして計5地域のクライメートスクールから得られるデータを基に防災・気候変動教育を行っていきます。生徒たちに自分たちの住んでいる地域の大気・気象状況を実際のデータで知ってもらうことにより、防災・気候変動により興味を持ってもらうことを期待します。

また機材設置の翌日、12月11日から13日、安倍首相がインドを訪問され日印首脳会談が実施されました。その共同声明の中で、SEEDS Asiaのこの取り組みについても取り上げられ、ファクトシート「日印、平和と繁栄のための協働」に掲載されました。以下のリンクからファクトシートをご覧ください（54番目の2つ目の点に記載されています）。

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/s\\_sa/sw/in/page4\\_001632.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/s_sa/sw/in/page4_001632.html)



自動気象観測装置を設置しているところ



## ネパール

## 【ジャパン・プラットフォーム】

## 学習支援キットの使用状況のモニタリングの実施

ネパールでは、供与した学習支援キットの使用状況に関するモニタリングと、これまで実施した2回のワークショップの内容のフォローアップのため、学校訪問を進めています。12月末までに計7校の状況を確認しました。

ネパールでは、9月後半以降、インド国境からのネパールへの燃料の輸入規制に伴い、深刻な燃料不足に陥り、ネパールの人々の生活がさらに苦しくなりました。また、ダサイン（ネパールで15日間の国家（宗教的）最大の祭り）等により11月中旬まで学校の長期休暇となり、私達の活動も制限される状況になりました。そのため、12月までは、事業地への訪問は控え、電話で学校長等に連絡し、フォローアップを行いました。

11月後半以降、カトマンズ市内では燃料が入手できるようになり、車の交通量も増えてきました。ネパールのみなさまの生活が改善されることを願ってやみません。SEEDS Asiaも、1月に入ってから、事業地訪問の再開に向け、再度計画を作成し、活動を進めてまいります。



ガソリンスタンドで給油するため1km以上も車が並び、6時間待たなければならぬという日もあった

東北：東日本大震災被災者支援事業

【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

南三陸町での防災教育の教員研修会

2015年11月26日、宮城県南三陸町歌津平成の森アリーナにおいて全教員を対象とした防災教育の教員研修会が行われ SEEDS Asia も講師として参加しました。

これは昨年まで気仙沼市の教育研究員であった現南三陸町志津川小学校の三浦教諭が気仙沼での防災教育の経験を南三陸町に活かしていきたいという思いから始まったもので、夏ごろから京都大学と共に南三陸町教育委員会と協議を重ね、実現したものです。

この研修会に先立ち、南三陸町の防災担当主幹教諭の会議で、京都大学からは学校災害回復力調査 (SDRA) の説明や、その調査データの入力作業の研修を行い、SEEDS Asia からはコミュニティ防災に関する講義を行いました。そして研修の内容に関しては「全学校が共通認識を持って実施していく必要がある。」と防災担当主幹教諭が感じ、今回の研修会に至りました。



120名の全教員が参加した講演会

当日120名の教諭が並ぶ中、研修会が始まりました。前半は南三陸町教諭2名の実践発表です。完全に崩壊したコミュニティの中、工夫を重ねて防災教育をしている様子が良く分かる発表でした。日本では、児童が学校に居る時間は18%でしかなく、家庭や地域にいる時間は82%にもなると言われています。明らかに学校だけの教育では子ども達を守る事が出来ません。先生方の発表に皆真剣にメモを取りながら聞いていました。

後半は講演会です。最初に京都大学がSDRAの説明を、そしてSEEDS Asiaが「コミュニティ形成に関する学校の役割」という題目で気仙沼市南郷災害公営住宅での条南中学校の取組や、神戸市の防災福祉コミュニティを例に講演を行いました。

参加者からは、「自分の勤める学校の防災力がどれくらいあるのか。そしてそれを高めるためにはどのような取組をすればよいのか。実際にSDRAを使って推し量ってみたい。」「子ども達の将来を見据えた活動の発表が素晴らしい。復興を目指して様々な取組があるが、一番大切なのは人を育てることだと私も思います。」といった声が聞かれました。



SEEDS Asia が最後に今後の防災教育の方向性を示した

ベトナム

【日本 NGO 連携無償資金協力事業：クアンナム省沿岸地域における学校と地域での防災推進事業（第2年次）】

DOET 主体の防災普及ワークショップ

11月24日、事業最後の検討委員会が開催されました。過去の同委員会開催は、どちらかというときが主体。しかし、今回はカウンターパートのDOET（省教育訓練局）が中心となり実施されました。参加者は学校防災教育セクター（BOET/ 郡教育訓練局・学校教職員）の100名強。

特記すべきは、もう一つのカウンターパート（DARD/ 省農業開発局）も招待していたことです。異なる二つの局同士がこんなにも緊密な関係になること自体が非常に稀有。本事業を通し2局が協力して防災教育に取り組んでくれた成果と受け取っています。



学校教育の成果発表をする DOET・Mr. Loc



地域防災教育の成果発表をする DARD・Mr. Ty

上記の写真のように DOET および DARD からこの 2 年間の事業成果が、また他に BOET（郡教育訓練局）やモデル校から学校での防災教育および防災授業の成果が発表されました。参加者全員、真剣に取り組んできた防災教育の成果発表とあって、嘗てない程熱心に聞き入っていました。

### 事業集大成のファイナル・ワーク・ショップ

12月1日、2013年12月より実施してきた本事業のファイナル・ワークショップが開催されました。参加者は学校防災教育セクター（DOET・BOET・モデル校教職員）と地域防災教育セクター（DARD・BARD/郡農業開発局・婦人会・青年団）、またシーズ本部からは理事長・事務局長の計90名強。

内容は、受益者による防災パフォーマンス（生徒の歌・婦人会の劇）、シーズ理事長の挨拶・DOET/DARDの事業報告、表彰状授与。

ワークショップ終了後は、多くの参加者から「2年間の良い成果を残して貰いました。シーズ防災事業が撤退するのは淋しい。是非とも、これからも続けてほしい」との嬉しい声が寄せられました。



防災モデル校生徒による洪水対策を訴える子供の歌



婦人会職員による地震対策を訴える劇



本事業に尽力してくださったクアンナム省のカウンターパートへの表彰状授与

### 本事業終了のお知らせ

2013年12月から実施して参りました【日本NGO連携無償資金協力事業；クアンナム省沿岸地域における学校と地域での防災推進事業】は、来る2015年12月23日をもちまして終了いたします。

無事この日を迎えることができたのは、ひとえに関係者皆様のご協力のお陰です。心より御礼申し上げます。有難うございました。



### ミャンマー

#### 【JICA 草の根技術協力事業：災害危険地域における防災能力向上支援プロジェクト】

#### 防災活動センター設立に向けた準備作業とオープニング コンジャンゴン区、ラプタ区、ボガレ区】

本プロジェクトでは、クンジャンゴン区、ラプタ区、ボガレ区の全3区において、各区2箇所（それぞれ中心部と遠隔地）、合計6箇所の「防災活動センター」の開設を計画しており、同センターを中心に学校と地域の連携を図るべく各対象区で活動を継続しています。事業期間は、2016年3月末までです。各区での活動の進捗状況を下記のとおりお伝えします。

##### 1) クンジャンゴン区

クンジャンゴン区の第二号地として開設準備を進めているラツコン村においては、雨期中止していたトレーニングを再開。下記のトレーニングを関係機関の協力を得て実施しました。

①地震・津波セミナー（11月28日）

講師：マンダレー大学 ミョータン助教授

②消防トレーニング（12月19日-22日）

講師：コンジャンゴン区消防局職員



ラッココン村での地震・津波セミナーの様子

加えて、防災学習教材ツールキットのトレーニングをラプタ区（11月21日）の他、ミャウンミヤ区（11月23日）マウビン区（11月27日）、ピャボン（12月9日）、ヒンタダ区（12月15日）の区教育長スタッフ、対象校向けに行いました。各校から教員2名ずつが参加し、教員の異動による活動の停止のないよう、活用計画を各校が区の教育長に提出しています。



防災学習教材ツールキット配布とトレーニングの様子

2) ラプタ区

ラプタ区の第二号地として開設準備を進めていたビトゥ村において、11月22日、防災活動センターの開所式が行われ、村民やラプタ区の区長を始め防災関係者が参加しました。今後の継続的な活動が期待されます。



ラプタ区第二防災活動センター（ビトゥ村）での開所式

【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

国家防災マネジメントトレーニングセンターの開所式  
【於：エヤワディ地域 ヒンタダ区】

11月4日、社会福祉救済復興省復興救済局が国家事業として提案した「国家防災マネジメントトレーニングセンター」が完成し、開所式典がエヤワディ地域ヒンタダ区の同センターで行われました。同式典には、社会福祉救済復興省 ドーミャツミャッオーキン大臣の他、各省庁の要人が出席し、継続して実施された防災マネジメントトレーニングの様子を見学されました。

SEEDS Asia は、同センターの能力開発を支援する MCCDDM コンソーシアムメンバーとして、防災分野における調査、そして啓発活動を担当していくこととなります。

3) ボガレ区

ボガレ区では、第一号地と第二号地のトレーニングを鋭意実施中です。11月から12月にかけては、下記のトレーニングが合同で実施されました。

① 応急処置トレーニング（12月27日-30日）

講師：ミャンマー赤十字職員

② 水と衛生、参加型アプローチによる衛生行動と衛生施設の変容促進トレーニング（略称 WASH）（12月31日、2016年1月1日）

移動式防災教室のモニタリング【ラプタ区】と防災学習教材ツールキットの配布

移動式防災教室の知識や技術の定着・拡大状況を確認するためのモニタリングを11月21日、ラプタ区の防災活動センターで実施しました。また、コンジャンゴンでも、2校（ラッココン村、トーケー村）を対象にモニタリングを実施しました（12月5日）。



ミャンマー初の国家防災マネジメント トレーニングセンター開所式の様子

【ミャンマー大洪水からの復興】

学校に於ける防災とよりよい復興に関するセミナーの開催  
【於：ネピドー、教育省ホール】

11月30日、ミャンマー教育省、JICA(CREATE ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト)、及び SEEDS Asia の共同開催で、「学校に於ける防災とよりよい復興に関するセミナー」が行われ、教育省内の6つの局の局長、各州・地域の代表者が揃いました。挨拶のセッションの後、教育省から先般のミャンマーの洪水の被害に関する説明とよりよい復興の必要性が強調され、JICA 側からは防災教育のカリキュラム改訂のアドバイザーを務めておられる近藤ひろ子先生により「防災学習」は「命の学習」のプレゼンが披露されました。SEEDS からはシニアアドバイザーである及川幸彦先生が「よりよい復興に向けてー東日本大震災の経験と教訓を踏まえてー」と題し、東日本大震災の被害の全体像から、被災後の子どもが抱えた直後の問題（精神的なものを含め）現在、長期的な問題・課題、上記を踏まえた国（文科省）としての方針、気仙沼市教育委員会の復興方針・取り組み、その効果、また、ネットワークの重要性などについて紹介し、活発な質疑応答がありました。最後のセッションには、現在進行中の防災教育を含むライフスキル科目の新教材の紹介があり、今般の洪水被害を踏まえ、どのような教材が求められるのか、会場で議論されました。



より復興に関するセミナーの様子  
及川幸彦シニアアドバイザー

プログラムの冒頭では教育省長官（大臣）と次官（副大臣）、JICA フィリピン事務所の次長もメッセージを下され、長官と次官は教育省関係者に対し「防災教育の先行事例を持つ日本から多くを学びましょう」「フィリピンは資本がないから日本のような取組みはできないという意見もありますが、私はそうは思いません。教育省全体の力を合わせて頑張りましょう」と、鼓舞して下さいました。

プログラムの骨子の1つ、日本の防災教育の経験や知見の共有では、兵庫県教育委員会からは1995年阪神・淡路大震災後の防災教育の変移、そしてESD 専門家からは2011年東日本大震災前後のESDの取組みとその影響について、それぞれ特別講義をして頂きました。これについて参加者からは「以前の兵庫県のよう、フィリピン中部も2013年の台風ヨランダ(国際名：ハイエン)以前は備えの大切さを認識していなかった。大災害の記憶が新しい今だからこそ、防災教育を通じて子ども達の命を守りたい」「日本は早期警報システムが発達しているから災害に対して強いのだと思っていたが、想定外の大きな災害に対して備えるためには教育が重要だと認識した」などの声が聞かれました。



集合写真

一方、フィリピン国内の優良事例紹介では、本事業における地域との連携による防災教育、SEEDS Asia とマカティ市による防災普及啓発事業、北カマリネス州の高校の取組み、そして JICA フィリピン事務所の防災関連事業をパネルディスカッションという形で発表しました。同ディスカッションでは、実施において困難だった点やその解決策について紹介することで、「我々も同様の問題に直面すると思うので、大変参考になる」と言う参加者が多くいました。

度重なる災害を受けフィリピン国内でも防災教育への注目は高まるばかりですが、一時的な流行にとどまらず、持続的な防災教育が定着することを目指し今後も各パートナーと連携して取組んで参ります。

 フィリピン (セブ)

【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業】

「教育と防災カフォーラム」開催

本事業では、フィリピン国内の他地域でも活用できる防災教育のモデル確立を目指し、将来的には現地教育省の尽力による普及が望まれています。その第一歩として、2015年11月10日、教育省本省のカンファレンスホールにて教育省との協力による「教育と防災カフォーラム」を開催しました。日本の防災教育の経験や知見を共有すること、フィリピン国内で既に実施されている防災教育の優良事例を紹介することを目的とし、日本からは「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」専門家と、兵庫県教育委員会の防災教育専門家を招へいました。

会場には教育省各事務所代表者や教育省のパートナー機関（国際 NGO や気象庁などの政府機関）、マニラ首都圏の地方自治体から合計 136 名が集まりました。

 フィリピン (マカティ)

【日本 NGO 連携無償資金協力事業：移動式防災教室による防災知識の普及啓発事業 (第 1 年次)】

マカティ MKRC プロジェクトの進め方

SEEDS Asia は、マカティ市役所の防災管理事務局と連携して移動式防災教室 (Mobile Knowledge Resource Center : MKRC) を開発し、住民や学校を対象とした効果的な防災教育の実施を目指しています。オリジナルの MKRC は SEEDS Asia のミャンマープロジェクトで開発されたものです。

マカティ版 MKRC の開発に伴い、市役所からは広報・コミュニティ連携部とバランガイリーグ、都市開発部と、教育省マカティ市地区事務所からそれぞれ代表を招集し、プロジェクト実施チームを結成しました。

本プロジェクトは1) タウンウォッチングとハザードマップづくり、2) プロジェクト実施チームのミャンマー研修、3) MKRC トレーニングプログラムの開発、そして4) バランガイ・学校 MKRC トレーナーの研修(Training of Trainers : ToT) と MKRC の実施で構成されています。



タウンウォッチングとハザードマップづくりについて説明を受けるバランガイ・サンタ・クルスからの参加者



MKRC トレーニングのプログラムについて議論するプロジェクト実施チーム

日本

【JICA 課題別研修】

防災主流化の促進

課題別研修「防災主流化の促進」コースが 2015 年 11 月 16 日から 27 日までの間、東京、神戸、京都で行われました。この研修は SEEDS Asia が JICA より委託を受け、実施したものです。インドネシア、マレーシア、フィリピン、ミャンマー、バングラデシュ、スリランカ、東ティモール、フィジー、チリ、イラン、モリシャス、インド、ブラジルから 15 名の防災エキスパートが集まり、日本での防災主流化の促進を投資、インフラ整備、消防、医療サービス、NGOs、コミュニティ、ジェンダーなどさまざまな視点から学びました。研修生は日本のみならず、研修生同士の出身国での防災主流化に関する教訓についても非常に興味を持ち、積極的に質疑が行われました。更には、研修生同士がソーシャルメディアで繋がり、継続的な知識共有を目的としたプロフェッショナルなネットワークの構築にも当研修が活用されました。最終的に、当研修は研修生の自国の防災主流化の促進を成功させるための鍵を見つけ出すことに役立ち、研修生より非常に有益な研修であったという声をたくさんいただきました。

タウンウォッチングとハザードマップづくり

2015 年 12 月時点で、マカティ市内の 20 のバランガイにてタウンウォッチングとハザードマップづくりを実施しました。残りの 13 バランガイでは、2016 年の 2 月に同活動を完了する見込みです。

MKRC トレーニングプログラムの開発

プロジェクト実施チームは 2015 年 11 月と 12 月にミーティングを重ね、MKRC トレーニングプログラムの完成を目指しました。同プログラムは MKRC を用いた ToT のためのもので、コミュニティ防災に関する深い理解を促す内容としています。1 日目はマカティ市の災害や防災取り組み、2 日目はコミュニティで実施できる特定災害に関する行動や活動、3 日目はアクション・プランづくりが主要なテーマです。

日	内容	アウトプット	
		バランガイ	学校
1	防災の基礎知識	防災クイズ	防災クイズ
2	特定災害に関する行動・活動		
3A	アクション・プランづくり	バランガイ/クラスターアクション・プラン	学校防災管理計画と防災教育計画
3B	融合アクション・プランづくり	バランガイ/クラスターと学校の融合アクション・プラン	

※クラスターは同地域にある複数のバランガイで構成されるグループ

プロジェクト実施チームは既に SEEDS Asia による研修で、MKRC トレーニングで活用できる活動について学んできました。そこで、それらの活動を誰がどのように ToT で紹介するかを決定し、政府機関の専門家をゲストスピーカーとして呼ぶなどしてプログラムの充実を図っています。2016 年、同プログラムをまず 11 のバランガイで試行してから、残りのバランガイに展開していく予定です。



防災とジェンダーの講義中



最終日に与えられた修了証書と研修生



India

Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi

Kick-off workshop

On 16th November, a kick off workshop was held at Banaras Hindu University - a partner of this project. There were about 30 attendees in the workshop, including the First Secretary from the Embassy of Japan, the Mayor of Varanasi city, school officials and community residents. SEEDS Asia's activities and the overview and expected outcomes of this project were introduced in the workshop. Principals and teachers from the schools that were selected to implement disaster risk reduction (DRR) education and climate change education in the future as well as social welfare practitioners from the community had a chance to discuss DRR & environment education in the latter half of the workshop. During the discussion, they discussed current activities in the local schools and areas and shared experience of the issues. Participants showed keen interest in the project. A good start for future activities has been made.



At Kick-off Workshop

Installation of the weather devices in Climate School

On 10th December, Automatic Weather Station (AWS) and Air Sampler (AS) were installed in the Aryan International School- one of the selected Climate Schools.

AWS is a device that automatically observes temperature, wind direction, wind speed, rainfall amount etc. AS is a device that measures air pollution substances such as carbon dioxide, nitrogen oxide, Sulphur oxide, particulate matters, etc.

SEEDS Asia is going to install these instruments in four other Climate Schools in Varanasi city as well. The data obtained in each school will be utilized in DRR/Climate Change education so that students can understand the conditions of where they live more clearly, which then leads to their interest in DRR & climate change.

Besides, a day after the instruments were installed, Japanese Prime Minister- Shinzo Abe visited India from 11th to 13th December and Japan-India Summit Meeting was held in New Delhi. This activity by SEEDS Asia was mentioned in the "Fact Sheet: Japan and India, Working Together for Peace and Prosperity" as a part of Joint Statement of Japan and India in this occasion. (Please refer to the following link).

[http://www.mofa.go.jp/s\\_sa/sw/in/page3e\\_000436.html](http://www.mofa.go.jp/s_sa/sw/in/page3e_000436.html)



Automatic Weather Station installed on the top of the school building



Nepal

Project funded by the Japan Platform

Monitoring of educational kit using condition

SEEDS Asia has conducted school visits to monitor condition on the utilization of the distributed educational kits and to follow up the contents of the two workshops that had been implemented before. Until the end of December, the condition in seven schools in total had been confirmed.

Due to the restraint on fuel exported from India to Nepal, Nepal has faced serious shortage of fuel and daily life of the citizens has also become harder. Besides, until the middle of November, schools had long holiday because of Dashain (a fifteen-day-long national festival of Nepal), our activities have also been restricted. Therefore, our visits to project site were refrained until December and the follow-up with school principals was conducted through telephone.



Since the latter half of November, it has become easier to get fuel inside Kathmandu city and traffic has increased. Hopefully daily life of Nepalese people will get better. SEEDS Asia is making plans so that we can visit the project site from January.



There were days when it took six hours for cars to get to filling station after lining up for about one kilometer

## The Great East Japan Earthquake

Project funded by UMCOR · CWS Japan

### Training for teachers in disaster risk reduction (DRR) education in Minami-Sanriku Town

On 26th November 2015, the training in DRR education targeting all teachers was held at Heisei-no-Mori Arena in Utatsu, Minami-Sanriku, Miyagi Prefecture. SEEDS Asia served as a lecturer in this training.

The training was started from an idea by Mr. Miura, a senior teacher of Shizugawa Elementary School (Minami-Sanriku Town) at the present and a former education researcher of Kesenuma City until the last year, as he thought that experiences in DRR education in Kesenuma should be shared with and leveraged in Minami-Sanriku Town. The training was conducted after several discussions between Kyoto University and Board of Education in Minami-Sanriku Town from last summer.

Before this training, a conference for senior teachers in disaster risk management in Minami-Sanriku Town was held. In the conference, there were explanation of the School Disaster Resilient Assessment (SDRA) and SDRA data input method from Kyoto University, and lecture on community DRR from SEEDS Asia. After the lecture, the senior teachers felt that disaster risk management regarding the contents of the lecture should be conducted at all schools with common sense. This resulted in holding the training in DRR education targeting all the school teachers.



The lecture was attended by 120 teachers

On the day, 120 teachers gathered to start the training. The former half was practice presentation by two teachers from Minami-Sanriku Town. The presentation revealed that various ingenious efforts were being made so that DRR education could be implemented in such a community that suffered complete damages. In Japan, it is said that children spend only 18% of their time in schools while they spend 82% at home or local area. It is clear that we cannot protect the children with only school education. Everyone listened and took note seriously during presentation by the teachers.

The latter half was lectures. Kyoto University gave the first lecture on SDRA while SEEDS Asia gave the second one on the theme "The role of schools in community development", which quoted the activities for Jonan Junior High School at Nango Disaster Recovery Public Housing in Kesenuma City and Bosai Fukushi Community (Voluntary Organization for Disaster Risk Management) in Kobe City as examples.

There were some comments from participants, such as "We want to try using SDRA to estimate DRR ability of our school and then think about what we should do to improve our ability", "The presentation that focused on future of children was wonderful. Although various activities have been implemented to aim at recovery, I think that the most important one is education".



At the end, SEEDS Asia talked about future direction of DRR education

 Vietnam

**Grant Assistance for Japanese NGO Projects: Capacity Building for Disaster Risk Reduction at School and Communities in the Coastal Area of Quangnam Province**

Disaster Risk Reduction (DRR) Dissemination Workshop organized by DOET

On 24th November, the final Advisory Committee Meeting was held. In previous Committee Meetings, SEEDS Asia served as a core organizer, but this time, SEEDS assisted while DOET (Department of Education & Training) played the leading role in organizing the meeting. There were more than 100 participants in total who came from school DRR education sectors (Bureau of Education & Training (BOET) and schools).

Special mention must be made of DOET's invitation for DARD (Department of Agriculture & Rural Development), another counterpart of this project. It is rare that different departments cooperated with each other so closely. This may be considered as an achievement of this project as through it, two departments cooperated to work on DRR education activities together.

DOET & DARD reported on the project outputs in the past two years, BOET on DRR education at schools, and principals on DRR class carried out at each school. (Please refer to the pictures above). All participants had never listened to presentations so seriously and enthusiastically like that before.

Final Workshop as project compilation

The Final Workshop of this project, which has been implemented since December 2013, was held on 1st December. Participants were more than 90 government officials from school DRR education sectors (DOET, BOET and model schools) and community DRR education sectors (DARD, BARD, Youth Union and Women's Union), and Board Chairman and Executive Director from SEEDS Asia.

There were various events and performances in the Workshop (Kid's singing song & Women's Union's play), as well as a speech by SEEDS Asia's Board Chairman, reports of project outputs by DOET/DARD and a certificate presentation ceremony.

After the Workshop, to our delight, many participants sent us warm messages, such as "We feel sad that SEEDS Asia's DRR project is ending", "We hope SEEDS Asia will keep supporting Vietnam", and so on.



Mr. Loc from DOET making presentation on achievements of school education



Students from model schools singing a DRR song about flood countermeasures



Mr. Ty from DARD making presentation on achievements of local DRR education



Members of Women's Union organizing a play on DRR



SEEDS Asia's Board Chairman granting certificates to Vice Directors of DOET & DARD

**Notification of Project Completion**

[Grant Assistance for Japanese NGO Projects ; Capacity Building for Disaster Risk Reduction at Schools and Communities in the Coastal Area of Quang Nam Province] , which has been carried out since 24th December 2013, will end on 23rd December 2015.

It is certain that this project owes its successful completion to the great cooperation of all the people involved. We would like to express our deep gratitude to you. Thank you very much from the bottom of our hearts!



**Myanmar**

**JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) in Disaster Risk Areas**

**Preparatory work for establishment of DRRAC and Opening of DRRAC in Laputta BEHS 2 [Kungyangon, Labutta and Bogale Township]**

The current project, which is supported by JICA, designates three townships named Kungyangon, Labutta and Bogale as highly prioritized areas. In each area, two DRR Activity Centers (DRRACs) are scheduled to be opened (one for central area and the other for rural area). Thus, during the project, 6 DRRACs in total will be established, aiming at enhancing cooperation among government, schools and community. The project will last until the end of March 2016.

**1) Kungyangon Township**

Let Khoke Khone village, which has been chosen for the second DRRAC in Kungyangon Township, restarted the training that were delayed due to rainy seasons as follows:

1. Earthquake & Tsunami Seminar (28th November)  
Lecturer: Dr. Myo Thant (Department of Geology, Mandalay University)
2. Basic Fire Training (19th - 22nd December)  
Instructor: Fire Service Department



Tsunami and Earthquake Seminar in Let Khoke Khone vilage

**2) Laputta Township**

On 22nd November, an opening ceremony of the 2nd DRRAC in Laputta Township was held at Basic Education High School (BEHS) in Bithu with the presence of Township Administrative Officer, concerned officials and villagers. It is expected that DRR activities will be continued by the Center in the future.



Opening ceremony of 2nd DRR Activity Center in Laputta Township at Bithu BEHS

**3) Bogale Township**

A series of training sessions for the 1st DRRAC (Bogale Thi Aung) and the 2nd one (Kun Thee Chaung Village in Kyon Nyon Gyi island) in Bogale Township were implemented as per the planned schedule as follows.

1. First Aid Training with Psycho Social Care Training (27th December- 30th December)  
Instructor: Myanmar Red Cross Society (MRCS).
2. WASH (Water, Sanitation and Hygiene) and PHAST (Participatory Hygiene and Sanitation Transformation) Training (31st December - 1st January, 2016)  
Instructor: MRCS.

Monitoring of the Mobile Knowledge Resource Center (MKRC) (Laputta Township) and distribution of DRR Learning Tool Kits

On 21st November, a monitoring visit was held in the DRRAC in Laputta Township to confirm how knowledge and technology from the MKRC have taken root and expanded. Monitoring visits were also held in two other schools in Kungyangon, namely school in Let Khoke Khone village and Tawku village on 5th December.

Moreover, DRR Learning Tool Kits were distributed to the Township Education Offices and targeted schools in Laputta Township on 21st November, Myaungmya Township on 23rd November, Ma-ubin Township on 27th November, Pyapon Township on 9th December and Hinthada Township on 15th December. Each school had two teachers participate in the distribution. Schools are submitting their Activity Plans to the Township Education Office to make sure that there is no change in teaching staff in charge that may affect the implementation of the activity.



Opening ceremony of the National Disaster Management Center

Flood Recovery

Seminar on Build Back Better Recovery and Disaster Preparedness in Schools in Myanmar [Nay Pyi Taw]

On 30th November 2015, a seminar on Building Back Better was jointly held by Ministry of Education, JICA and SEEDS Asia.

With the presence of all Director Generals of 6 departments and all State and Region officials of Ministry of Education, Ministry of Education explained the latest flood situation and emphasized the needs of building back better. After the session, Professor Hiroko Kondo, an advisor for CREATE/ JICA project on Curriculum Reform and Teacher Education made presentation on “Disaster Management Education is Education for Saving Life” . Then, the Senior Advisor of SEEDS, Dr. Yukihiro Oikawa gave a presentation on “Towards Building Back Better- from the lessons learned from the Great East Japan Earthquake and Tsunami-” with his own experiences though the process of recovery, from the general image of the Great East Japan Earthquake and Tsunami, to middle- and long-term issues including ones that children faced, the government’ efforts to address the issues and their results. The many officials were interested in listening his presentation and raised many questions.

In the last session, there was introduction by a member of CREATE Project of new teaching materials in Life Skill Study which includes ongoing DRR education. Expectations of the new curriculum were discussed by the participants based on recent condition of flood damage.



Distribution and training in usage of DRR Tool Kits

**USAID MCCDDM Project:  
Myanmar Consortium for Capacity Development  
on Disaster Management**

Opening Ceremony of National Disaster Management Training Center (DMTC) [Hinthada Township, Ayeyarwady Region]

The National Disaster Management Center (DMTC) which the Relief and Resettlement Department (RRD), Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement proposed as a national program was completed. The opening ceremony was held on 4th November at the Center which is located in Hinthada Township in Ayawardy Region. On the day, Dr. Daw Myat Myat Ohn Khin, the Minister of Social Welfare Relief and Resettlement, as well as key persons of relevant ministries attended the ceremony and observed how disaster management training had been continuously conducted. As a member of Consortium for Capacity Development on Disaster Management in Myanmar (MCCDDM) which supports capacity building of the DMTC, SEEDS Asia is going to be in charge of disaster management research and public awareness activities.



Lecture by Dr. Yukihiro Oikawa, Senior Advisor of SEEDS Asia in the Seminar on Build Back Better



## Philippines (Cebu)

### JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) through Cooperation between Local Communities and Education Sector in Cebu Province

#### Disaster Risk Reduction (DRR) Education and Resilience Forum

This Project aims at establishing DRR Education models that can be applied in other areas of the Philippines and it is desired that Philippine Department of Education (DepEd) will take part in rolling out such models. The first step for extending the project outputs was the “DRR Education and Resilience Forum” held by SEEDS Asia in partnership with DepEd on 10th November, 2015. The two major objectives of this forum were as follows: 1) to share Japan’s experiences and expertise in DRR Education; and 2) to introduce good practices of DRR initiatives which are implemented inside the Philippines. For the purpose 1), SEEDS Asia invited one expert of Education for Sustainable Development (ESD) and another of DRR Education of Hyogo Prefectural Board of Education (BoE) from Japan.

On this day, 136 participants from all over the Philippines, mainly from DepEd's Region and Division Offices, DepEd's partner agencies such as international non-governmental organizations and governmental agencies, and local government units in Metro Manila gathered at a conference hall in DepEd Central Office.

In the opening program, DepEd's Secretary and Undersecretary, and JICA Philippines' Senior Representative gave inspiring messages. The Secretary and Undersecretary particularly encouraged the educators saying “We should learn a lot from Japan- a country that has many innovative DRR Education approaches” , “Some may say the Philippines cannot follow what Japan does because the country lacks money, but I do not think so. We should cooperate with each other to further enhance the resilience of our children.”

In one of the main sessions which is sharing Japan's experiences and expertise, the expert from Hyogo BoE and the ESD expert gave special lectures on the history, transformation and influence of their DRR Education or ESD initiatives after the Hanshin-Awaji Earthquake in 1995 and the Great East Japan Earthquake and Tsunami in 2011. Participants reacted to such sharing by stating “The Visayas area of the Philippines was unaware of the significance of preparedness until November 2013 when Typhoon Yolanda (international name: Haiyan) occurred, just like Hyogo Prefecture was not aware before the Earthquake in 1995. Now that we still have a fresh memory of the disaster, we should work on protecting children's lives by DRR Education” , “I had thought Japan was disaster-resilient because their early warning system was well developed, but I learned today that education played a very important role in being prepared for unexpectedly huge disasters.”



Group photo

On the other hand, the other major session was a panel discussion on existing initiatives in the Philippines. The presenters consisted of the Core Team of this Project, SEEDS Asia's staff members in another project on DRR awareness-raising in Makati City, a high school in Camarines Norte and JICA Philippines. The themes included the challenges each presenter encountered, and how they overcame such difficulties. Hearing this, many participants said “The discussion was very meaningful since we may encounter the same kind of problems when we start our own initiatives.”

Experiencing many disasters has made the Philippines aware of the importance of DRR Education in recent years. However, it is important that such attention will not be transient and that different stakeholders will collaborate with each other for sustainable DRR Education.



**Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project on Raising Awareness for Disaster Risk Reduction by Mobile Knowledge Resource Center (MKRC)**

**The Makati MKRC Project**

SEEDS Asia in partnership with the City Government of Makati’s (CGM) Disaster Risk Reduction and Management Office (DRRMO) is developing a Mobile Knowledge Resource Center (MKRC) which will be utilized by the City to effectively disseminate disaster education to its community members and schools. The original model of MKRC was developed in Myanmar as one of the leading initiatives of SEEDS Asia.

In developing the MKRC, SEEDS Asia is cooperating with other departments of the CGM such as Information and Community Relations Department, Liga ng mga Barangay (League of Barangays), Urban Development Department and the Department of Education- Makati City Division. Activities of the project include: 1) Town Watching and Hazard Map Making, 2) Study Visit of Project Implementation Team (PIT) to Myanmar, 3) Development of the MKRC Training Program, and 4) Training of MKRC Trainers for the barangays/schools.

**Town Watching and Hazard Map Making**

As of December 2015, the MKRC Project has conducted Town Watching and Hazard Map Making in 20 Barangays in Makati City.

The project is expected to finish Town Watching and Hazard Map Making in the remaining 13 barangays by the end of its first project cycle year in February 2016.



Participants from Barangay Sta. Cruz being briefed about the Town Watching

In November and December, the PIT has been meeting to finalize the training design for the MKRC. The training of trainers (ToT) will be conducted in three separate days of which each day provides a deeper understanding about Community-based disaster risk reduction (DRR). The three-day training covers the following contents: (Day 1) an introduction to disasters and DRR initiatives in Makati City, (Day 2) actions and activities that community can undertake to cope with each specific hazard, and (Day 3) making of Action Plan.

Day	Contents	Output	
		Barangay	School
1	General Background knowledge of DRR	DRR Quiz	DRR Quiz
2	Actions and Activities towards each specific hazard		
3A	Cluster DRRM/ School DRRM Action Plan	DRR Action Plans in Barangay/ Cluster	School DRRM Plan and DRR Education Mainstream
3B	All- stakeholder Integration Plan	Integrated DRR Plans for Clusters/ Barangays and Schools	

Through SEEDS Asia’s training, the PIT’s members have learned about the activities that can be applied during the MKRC training, so the role sharing among the members such as who will handle which certain part of the training has been decided. Speakers from other organizations will also be invited to provide hazard-specific training. The training program will be piloted to 11 barangays of Eastern and Northeastern Makati City and then rolled out to the remaining 23 barangays in 2016.



Project Implementation Team discussing the contents of the MKRC Training



[JICA Training: The Knowledge Co-Creation Program]

Promotion of Mainstreaming Disaster Risk Reduction

The training in Promotion of Mainstreaming Disaster Risk Reduction (DRR) was organized by JICA in cooperation with SEEDS Asia from 16th to 27th November 2015 in Tokyo, Kobe and Kyoto, Japan. 15 DRR experts from Indonesia, Malaysia, Philippines, Myanmar, Bangladesh, Sri Lanka, Timor-Leste, Fiji, Chile, Iran, Mauritius, India and Brazil learned about promotion of mainstreaming DRR in Japan from various aspects such as investment, infrastructure, fire fighting, medical services, NGOs, community, and gender. The participants were very interested in and asked actively about lessons in mainstreaming DRR not only in Japan but also in each other's home country. Furthermore, the training also helped participants in building a professional network so that they will connect through social media and continue sharing knowledge to each other. After all, many participants told us that this training was very beneficial for them because it helped them find keys to success in promoting mainstreaming DRR in their own countries.



During the lecture on DRR and gender



Participants with certificates given on the last day of the training